

事項	水田雑草「アメリカゼナ」の防除法		
ねらい	<p>近年、県内の一部水田においてアメリカゼナが特異的に残草した事例がみられる。</p> <p>ここでは、アメリカゼナに対する体系処理による防除法について検討したところ除草効果が高かったので、参考に供する。</p>		
指導内容	<p>1 アメリカゼナの防除方法</p> <p>(1) 初期剤散布から15～25日後に中期剤を散布する。</p> <p>(2) 一発剤（初期一発剤、初・中期一発剤）散布から、15～25日後に中期剤、または35～40日後に後期剤を散布する。</p> <p>(3) 「初期剤＋中期剤」または「一発剤＋中期剤」の体系処理後に残草がみられる場合は、中期剤散布から20～25日後に後期剤を散布する。</p> <p>(4) 中期剤及び後期剤には、MCPBかMCP、またはベンタゾンを含む剤を使用する。</p> <p>2 アメリカゼナの発生特徴</p> <p>(1) アメリカゼナの発生は長期間にわたり、また、生育抑制個体であってもその後の回復が早く生長は旺盛となる。</p> <p>(2) 種子が非常に微細な粒状であることから、風、水、耕起作業等によって、種子の拡散や他の圃場への伝搬が容易におこなわれるものと考えられる。このため、初めて確認した年の発生が少なくても、翌年には発生量、面積ともに拡大する可能性が高い。</p>		
期待される効果	水田雑草アメリカゼナの防除が可能となる。		
利用上の注意事項	<p>1 一発処理剤で除草効果の高い剤が開発されているが、使用方法については現在検討中である。</p> <p>2 水稲除草剤の一般的な雑草防除のための使用基準等は、県「農作物病害虫防除等基準」に準拠する。</p>		
担当	青森県農業試験場 栽培部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成9年度 青森県農業試験場成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果等】

表1 アメリカアゼナに対する除草剤の効果

(平成9年度 青森農試)

供 試 薬 剤	処理 時期 (田植後 日数)	ポット試験		圃 場 試 験			
		8月12日(田植後67日目) 雑草風乾重(g/m <sup>2</sup> )		処理 時の 発生 状況	発生 始め 月旬	7月24日(田植後51日目) 雑草風乾重(g/m <sup>2</sup> )	
		雑草調査時 の 状 況	アメリカアゼナ (対無除草 区比%)			ア ゼ ナ (対無除草 区比%)	アメリカアゼナ (対慣行剤 区比%)
無 処 理 区	—	着蕾、大型	3.94 (100)	—	6-2	20.22 (100)	0.03 (0.14)
慣行・初・中期一発剤 (ザーク1キロ粒剤75)	+5	抑制株・伸 長株が混在	0.4 (10.2)	未	6-4	0.02 (0.1)	20.84 (100)
ソルネット1キロ粒剤 →クミリードSM粒剤	+5 →+25	無	0 (0)	未 未	—	0 (—)	0 (—)
ザーク1キロ粒剤75 →クミリードSM粒剤	+5 →+25	無	0 (0)	未 未	—	0 (—)	0 (—)
ザーク1キロ粒剤75 →ワイダー粒剤	+5 →+25	無	0 (0)	未 未	—	0 (—)	0 (—)
ザーク1キロ粒剤75 →バサグラン液剤	+5 →+40	無	0 (0)	未 未	—	0 (—)	0 (—)

注) 耕種概要

アメリカアゼナ発生圃場から表土を採取し、試験圃場に散布後、耕起・代かきをおこなった。

ポット試験：施肥・播種・代かき6月2日、処理：+5：6月11日；+25：7月1日；+40：7月16日

圃場試験：施肥・耕起：5月2日、代かき：5月10日、区画・均平：5月14日

試験区1区：平均6.6m<sup>2</sup>(1反復)、処理：+5：5月25日；+27：6月16日；+39：6月30日

【参 考】

表1 県内水田においてアメリカアゼナの発生が確認された地域と発生面積

(平成9年度 青森農研センター)

普及センター名	水稲作付面積 (ha)	発生地域名	発生面積 (ha) (発生面積率・%)
			アメリカアゼナ
黒 石	5,799	藤 崎 町	5 (0.09)
		田 舎 館 村	2 (0.03)
五所川原	7,320	板 柳 町	150 (2.1)
十和田	9,748	十和田市	10 (0.1)
鱒ヶ沢	2,129	全 域	40 (1.9)
木 造	9,277	車 力 村	3 (0.03)
平 賀	2,780	平 賀 町	30 (1.1)
		尾 上 町	20 (0.7)
金 木	4,624	金 木 町	50 (1.1)
県 合 計	65,696		310 (0.5)